

特集 「2013 年度人工知能学会全国大会 (第 27 回)」

一般セッション

大和田 勇人 (東京理科大学)

昨年から 4 日間の開催になったが、一般セッションはこの 4 日間すべてにわたって行われた。ただし、発表件数が昨年を 2 割ほど上回ったので、夜 (18:00 ~ 21:00) のセッションも行われた。一般セッションは国際会議場をメインに使用したが、夜のセッションが始まる前には会議場の 3 階に軽食が用意され、発表者や参加者の負担を少なくするよう工夫されていた。

一般セッションは例年のように論文募集時に示された該当分野によって分けられ、その内訳は表 1 のようになっている。ほとんどの該当分野から発表があり、人工知能研究が広範囲であることがわかる。また、表 1 の括弧内に記載した数字は、分野ごとのセッション数と発表件数であり、現在どの分野がホットであるかを示唆している。今回は自然言語が最も発表件数が多く、特筆すべき点としてあげられる。次に多いのがエージェント、機械学習であるが、これは例年どおりであるといえよう。

今回は論文募集時の該当分野にないセッションとして、「ことば・コミュニケーション」と「ロボットは東大に入れるか」がある。いずれもオーガナイズドセッションのように特定のトピックについてのセッションであり、それに該当する論文が集まったことから、このようなプログラムになった。特に、「ロボットは東大に入れるか」は発表の後にパネル討論会も行われ、富山県の教育関係者がパネラーとして出席され、扱いも一般公開にするなど、非常に注目を集めたセッションとなった。

例年、一般セッションには座長と評者が個々の論文とプレゼンテーションに関して評価を行い、その結果を集計して、優秀賞や推薦論文の選定を行っている。その

表 1 第 27 回全国大会一般セッションのセッション数と発表件数

セッション名	セッション数	発表件数
ヒューマンインターフェース	4	23
データマイニング	4	22
AI 応用	4	23
基礎理論	3	17
機械学習	5	28
自然言語	6	33
ロボットと実世界	3	16
Web マイニング	3	18
エージェント	5	30
画像・音声	1	5
ソフトコンピューティング	2	11
教育支援	2	11
Web インテリジェンス	2	12
知識の利用と共有	2	13
ことば・コミュニケーション	2	13
ロボットは東大に入れるか	1	7

ため、質疑応答が活発に行われ、また 20 分の発表時間もセッションの盛り上がりには貢献しているものと思われる。今年は発表件数が多いため、セッション数がオーガナイズドセッションも含めて増加し、座長・評者の割当ては困難を極めた。しかしながら、こうしたやり方は人工知能学会全国大会の特徴でもあり、今後もこうした取組みを発展させ、一般発表を基盤としてさらに大会が盛り上げていくことを期待したい。